

法曹三者共催イベント「法曹という仕事」

～ 主に高校生に向け、法律家の役割や仕事のやりがいをお伝えしました ～



令和4年8月16日、最高裁判所・法務省・日本弁護士連合会の共催イベント「法曹という仕事」をオンライン開催し、高校生を中心に、中学生、大学生を含む約200人にご参加いただきました。

★ 開催結果の詳細は、裁判所ウェブサイトに掲載。
【第1部 講話】・【第2部 昔話法廷】は、YouTubeにアップしています！



令和4年度「法曹という仕事」

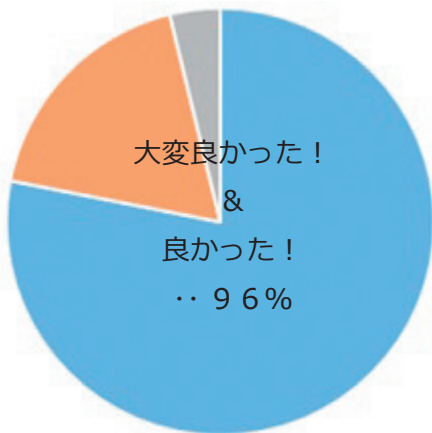
共催：最高裁判所、法務省、日本弁護士連合会

※ 複製禁止

© 2022 最高裁判所

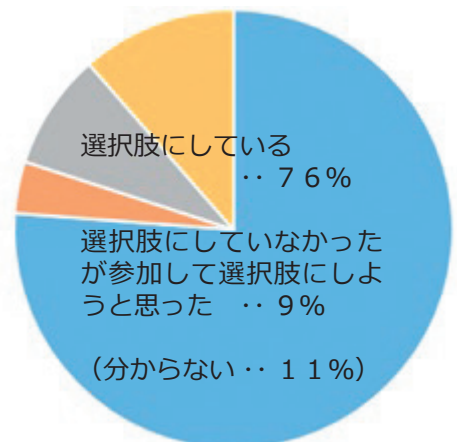
参加者アンケート・参加者の感想

企画全体について



- 自分の将来を決めるきっかけになりました。また、様々なやりがいを感じることでできる職種であるのだと改めて感じました。
- 現役の裁判官の方、検察官の方、弁護士の方がドラマの中のそれぞれの態度を評価していたのが面白かったです。
- 具体的なエピソードをたくさん聞くことができ、とても勉強になりました。
- 裁判官、書記官を含め、必ずしも法学部を卒業する必要はないことを知り、驚きました。

法曹という進路について



次回・第4回「法曹という仕事」は
令和5年8月に開催予定です。

企画の詳細は、裁判所・法務省・日弁連の各ウェブサイトでご告知します。

第1部 三浦守最高裁判事の講話



- 裁判官として様々な問題に取り組み、何よりも一人一人の正当な権利を守ることができ、社会のために貴重な仕事ができるというのは、大変やりがいのある仕事です。
- 自分の将来の進路や仕事を選ぶというのは、大変難しいことですが、その中でも自分が何のために仕事をしたいのかは、一つの大切な視点だと思っています。
- 若い皆さんが仕事に関心を持って、私たち法曹の世界に加わっていただけるとすれば、そんなうれしいことはありません。

第2部 共同企画「昔話法廷」

NHK Eテレ「昔話法廷」の「舌切りすずめ」を題材とした刑事裁判動画を再生し、「証人尋問」、「被告人質問」、「最終弁論」など、場面に応じて、法曹三者がそれぞれの立場から副音声的に解説しました。

「裁判の争点は何か」・「証人尋問、被告人質問の狙い」・「裁判官の訴訟指揮」など、法曹三者が白熱した掛け合いをしました。ぜひ、YouTube 動画をご覧ください。

以下は、参加者と法曹三者の質疑応答の一部です。

Q 実際の法廷でもよく異議が出るのですか？

- A 【検察官】事案によりますが、不当な質問にはすぐに異議を出せるよう緊張感を持って臨んでいます。
 【弁護人】異議を出す目的は、不当又は違法な質問を止めることと、尋問の流れを変えること。私は結構異議を出す方かもしれません。
 【裁判官】当事者が適切に異議を出すことで、証人に記憶のとおり話してもらえらえるということは、裁判官が事実認定をする上で大事なことと思います。

Q おばあさんがすずめの舌を切ったことは、(すずめが被告人である本件で) 考慮されないのですか？

- A 刑事裁判は、起訴状に書かれた事実について判断するので、すずめが舌を切られたエピソードは一旦片隅に置きます。有罪と判断する場合に、量刑を決める場面で、すずめにもかわいそうな部分があるかどうかという観点から考えることはあり得ます。



第3部 個別企画

「裁判官」「検察官」「弁護士」が3つのオンラインブースに分かれ、「仕事の魅力」や「働きやすい職場環境」などをPRしました。参加者は各ブースを自由に回り、視聴しました。個別企画では、法曹とともに仕事をする「裁判所書記官」・「検察事務官」も登場。裁判所ブースでは、裁判官と裁判所書記官で「○×クイズ」などを通じ本音を語り合い、裁判所のチームワークをアピールしました。

川野書記官

川村裁判官



菱川裁判官

布施木主任書記官

「裁判所チーム」紹介

『みどころ①』
 ・現役の裁判官、書記官が登場します！

『みどころ②』
 ・よくある疑問・質問に○×でお答えします！

Q 裁判官は法律を全部覚えている？
 Q 書記官は几帳面か？

15:00 『裁判所の仕事と日常』
 ① 裁判所でどんな人がどんなことを考えて働いている？
 ② ドラマで見るイメージとのギャップ？

15:20 『裁判所の仕事の「やりがい」と「これから」』
 ① 裁判所の仕事は責任重大…でも面白い！
 ② 裁判所の将来についてどう考えている？

15:40 『裁判官や裁判所職員になるために・・・』
 ① こんな人と一緒に働きたい！
 ② 皆さんへのアドバイス